

ゆき

雪

やまむらぼちよう

山村暮鳥

きれいな

きれいな

ゆき

雪だこと

はたけ

畑も

やね

屋根も

しろ

まっ白だ

きれいでなくって

どうしましよう

てん

天からふってきた雪だもの

ゆき

りす、りす、こ小りす

りす、りす、小りす、
ちよろちよろ小りす、

あんずの実が赤いぞ、み あか
たべたべ、小りす。

りす、りす、小りす、
ちよろちよろ小りす、

さんしよの露が青いぞ、つゆ あお
のめのめ、小りす。

りす、りす、小りす、
ちよろちよろ小りす、

ぶどうの花が白いぞ、はな しろ
ゆれゆれ、小りす。

きたはらはくしゅう
北原白秋

お月夜

つきや

トン、

トン、

トン、

あけてください。

どなたです。

わたしゃ木の葉よ。

トン、コトリ。

トン、

トン、

トン、

あけてください。

どなたです。

わたしゃ風です。

トン、コトリ。

トン、

トン、

トン、

あけてください。

どなたです。

月のかげです。

トン、コトリ。

北原白秋

きたはらはくしゅう

冬ふゆが来きた

たかむらこうたろう

高村光太郎

きふゆっぱりと冬きが来きた

やででしろの白はない花きも消きえ

いきちようの木きもほうきにななった

きりきりともみ込こむようふゆな冬きが来きた

人ひとにいひとやがらふゆれる冬き

草くさ木きに背そむかれ、虫むし類るいに逃にげらふゆれる冬きが来きた

冬ふゆよ

僕ぼくにこ来こい、僕ぼくにこ来こい

僕ぼくは冬ふゆの力ちから、冬ふゆは僕ぼくの餌え食じだ

しとおみ透とおれ、つときぬけ

火か事じを出だせ、雪ゆきで埋うずめろ

刃は物もののようふゆな冬きが来きた

どうてい
道程

たかむらこうたろう
高村光太郎

ぼく まえ みち
僕の前に道はない

ぼく うし みち でき
僕の後ろに道は出来る

しぜん
ああ、自然よ

ちち
父よ

ぼく ひとりだ こうだい ちち
僕を一人立ちにさせた広大な父よ

ぼく め はな まも こと
僕から目を離さないで守る事をせよ

つね ちち きはく ぼく み
常に父の気魄を僕に充たせよ

とお どうてい
この遠い道程のため

とお どうてい
この遠い道程のため

竹 たけ

萩原朔太郎 はぎわらさくたろう

光る地面に竹が生え、
ひか じめん たけ は

青竹が生え、
あおたけ は

地下には竹の根が生え、
ちか たけ ね は

根がしだいにほそらみ、
ね が さだ いに ほそら み

根の先より繊毛が生え、
ね の さき せんもう は

かすかにけぶる繊毛が生え、
かすか に けぶる せんもう は

かすかにふるえ。

かたき地面に竹が生え、
かたき じめん たけ は

地上にするどく竹が生え、
ちじょう たけ は

まっしぐらに竹が生え、
まっしぐら たけ は

凍れる節々りんりんと、
こお ふしぶし

青空のもとに竹が生え、
あおぞら たけ は

竹、竹、竹が生え。

いろは歌^{うた}

いろはにほへと

ちりぬるを

わかよたれそ

つねならむ

う^いみのおくやま

けふこえて

あさきゆめみし

え^えひもせす